

第一部 調査の概要

1. 調査研究の目的

高齢化の進展、地域社会関係の希薄化、既存の社会参加の場における参加率の低下等の問題を受け、岩手県における高齢者の生活実態と社会参加のあり方について検討するために、社会参加の前提となる高齢者の生活と社会参加の実態を把握し、地域特性、行政期待、個人期待等を絡ませながら、「社会参加」のありかたにつて考察する。その上で、行政と地域、個人の連携を描き出し、新たな「社会参加」について、そして新しい「公共性」のありようについて提示する。

2. 調査の企画および設計

調査の企画は財団法人岩手県長寿社会振興財団が行い、調査の設計、実施、および分析を、岩手県立大学に委託した。県立大学側の調査は、社会福祉学部 教授 佐藤嘉夫、講師 庄司智恵子が担当した。

3. サンプルング

調査のサンプルングは、震災後の状況を踏まえて、岩手県全体の代表性を考慮して、県都（盛岡市）、県南都市（一関市）、平場農村（奥州市江刺区）、県北地区（軽米町、九戸村）を任意に抽出した。各自治体との連携のもとで、それぞれの自治体が、55歳以上80歳未満の個人を対象とし、一定数をランダムに選んだ。

4. 調査方法

調査は設問紙にもとづくアンケート方式で、回答は自記式で行った。なお、回収法は各自治体の判断にゆだねた。

5. 調査時期

平成23年9月から11月

6. 調査結果

自治体ごとの調査サンプルと回収結果は以下のとおりである。

	対象数（サンプル）	有効回答数	有効回答率
・ 盛岡市	800	378	47.3%
・ 奥州市（江刺区）	400	221	55.3%
・ 一関市	600	298	49.7%
・ 軽米町	200	98	49.0%
・ 九戸村	200	76	38.0%
合計	2200	1071	48.7%